

水俣病補償

苦惱の合意



チツソ
江頭社長
精いつけいの努力

絡めた。とにかく絡めた。そんな感じだった。どうこうと照るナレッジのサイトにはさて、カーネーションの施られた頃には場は、一見はなやかに見えた。しかし、これが根たてで「本当の解決」になるのだろうか。いくらかのアップがあつたとはいえ、まだ安すぎる「命の代償」。患者・家族たちのこれからを暮らしに不安なしとは言えない。会社側はほ頬の補償費を胥負い、淋れども批判も残している。加賀美をしても「不當補償の前例」として問題は残るだろう。難船三百回の娘れど、カメラのフラッシュがきつい形にした。畠田のあとで記者会見にのぞんだ三者の表情には、やはり重く複雑なもののが漂っていた。

になる世論の反発

一もう一聲も
早く水俣へ帰り
船を出聞かねばなりません。離れ
ましたので疲労で倒れた山本が出て
ました。百助会長に代わって詫問函をな
して研会長の中津義芳さんへは、
深くくほんと自をしほたいた。

「ネーションの抱かれた願いのアップがあつたとはいえ、まほは水曜が水曜日で済んでいた。」

般のはこの中准さ
じみしたとばだ
「土氣の時はみな
て（隕隕上原のこと）
ん。私たちを支授
ちはうれしいのですが
ん止」では困ります
八割病に寄られる
しい患者自身の切実苦
ウラハラな顔がこの

「なんげ、しみ
やんなどまし
すみませ
くれるの持
くいほの
の興味
は一瞬
らす弱
「今
四年の
考え方
中か無

前の契約は、さきの
こ見舞金契約の改定
です」。いま解説成
派派への構えがあつ
たし。

「私たちが出
地に行って忠原君
さんに会った。
ビリにも行った。い
ちの匂が目に浮かび
ら多額の相償をつん
じしが貰ふとは思
かし……」六十ハ歳

山本会長 ふるえる手でサイン

堅い表情の調印式

任派の植樹開墾も、ついに
日、ビリオドを打った。源流
で御印戒に臨んだ慶喜たち。
装备制造にはなんともいえぬ複雑
のがあつた。

厚生省三
三人の處
の会社側
士三人が
向ま合つ
なも その めん 千七

は午後一時四十五分から
駿府城で、千種屋城ら
班委員、江頭社長ら八人
代表、そのあとに患者側
姿を現わした。会社側と
てすわる患者の表情はい

「されど、
姿勢をくすぐらず伏
じつと脚印を得つて
いまにも泣き出しそ
津梁芳副会長。とき
を江頭社長は桂代

西村山に、
し自分がち、
本亦山会長。
うな表情の中
おり鏡の視線
姿に走らせる

新井社長。午後一時四十分ま
で本長が調印、サインペンを
手が心なしかふるえている。
ておむむろにズボンのポケット
から印鑑を取り出し、あっせん
押印した。つづいて江頭社

親同士はねむかがおなじのひで、結
わり、千萬歳井が立等しがつてあ
れりつしめられた。ひんぐが曰
本名遣せ。それを聞くと、もめせず
に席を立つ。親同士の呼びども彼
のも振ら切りで、投げ出せり。

たため、御茶水屋吉兵衛が「阿波は
どうからがが悪いと解してらる」
と、あわてて詫問し、重苦しい空
氣の中で親同士は終わった。

焼香する患者家庭の人たち

じんぐいた

8

卷之三

出した。「麻雀の方も公朴側も、相応する立場を極めて……」ホツとした表情で、担当麻雀への感謝とねぎらいを述べる。

「青ぬした處は」、「現在の法体系ではどろにもならぬ問題が多かつたこと、紛争を将来に残さぬためにはどうすればいいかといふ苦心……。しかし、いまは双方に納得してもらえて……」。

皆懇意に満ちたこの三日間のあつせん作業。「何度もいよいよに、

水俣病補償にはたくさんのが特殊情がある。十余年前のことではあるし、現時点の問題と一緒にではきない。今回のあつせんは“公害補償の前例”となるものではない。“理解のないようだ”。自信といわれる千種さんも、きびしい世論の反対はさすがに気になるのだろうか。いつもは柔和なめがねの娘が、キラリと光った。

(東京支社)